

江陵

3位 全国出場ならず

春高バレー道予選女子



【女子準決勝・江陵―札幌大谷】江陵は第1セット、伊良つばさ主将が
レフトからスパイクを決めて20―24と追いつける

【江別】バレーボールの第
69回全日本高校選手権大会
(春高バレー)道代表決定戦
(道バレーボール協会など主
催)最終日は26日、江別市の
道立野幌総合運動公園総合体
育館で、男女の決勝などを行
った。女子の江陵(道協会推
薦)は準決勝で、優勝した札
幌大谷(同)に0―2で敗れ
て3年連続の3位となったも
の、2セットとも互角の展
開を演じ、成長した姿を見せ
た。納彩杜(2年、帯翔陽中
出)が主将を務め、島本来紀
(同、芽室中出)がレギュラ
ーで出場した男子の東海大札
幌高(道協会推薦)は決勝で、
道科学大高(同、札幌)に1
―2で競り負けた。杉本龍也
(2年、札幌中出)がベンチ
入りしたとわの森三愛(道協
会推薦、江別)は準決勝で東
海大札幌高に敗れた。女子の
札幌大谷は4年ぶり8度目、
男子の道科学大高は初優勝。
男女上位各2校が全国大会
(来年1月4日開幕・東京体
育館)の出場権を得た。
(北雅貴、折原徹也)

札幌大谷と互角に戦い、成長証明



全国にあと一步届かず悔しさをにじませる江陵の選手たち

全国大会までの「距離」が確実に縮まった。江陵はここ数年、全道上位に名を連ねるようになったが、トップとは競り合う展開まで持ち込めていなかった。福田まどか監督は「良いところもたくさん出た。戦えるようになった。3年生は成長した」と、悔しさをにじませながらも選手の健闘をたたえた。

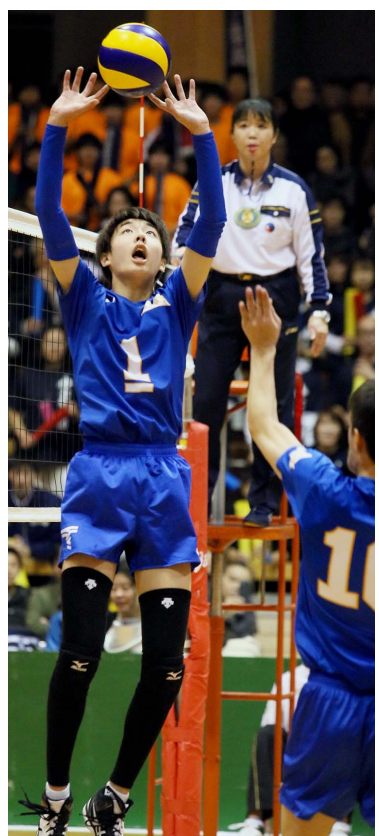
両サイドでのアタック決定力や相手エースへのブロックを考え、センターの平栗弥々(2年)をライトで起用。準々決勝までのポジションを変更して札幌大谷戦に臨んだ。

第1セットはレフトの坂井和(3年)や伊良つばさ主将(同)が強打をたたき込み、センターで先発出場した勝負屋(同)もクイックを成功させ、18―17とリードした。第2セットも平栗のブロックやアタック、センターの九本有希菜(2年)の速攻がさえた。連続失点で16―20とずるずると後退しそうな流れでも、セッターの能地愛美(3年)がレフトへ速いトス、相手ブロックを外して坂井

がスパイクを打ち込むなど、22―23と食い下がった。試合を通じてレシーブやブロックでのワンタッチなど守備も安定していた。能地は「速いバレーはできた。練習の成果を出せた」と話した。

札幌大谷には今夏のインターハイ道予選の決勝リーグで「ミスが多く出て完全な自滅」(伊良主将)で敗れた。以降は一人ひとりがレベルアップを図り、自分自身を追い込むことを意識して練習に取り組んだ。伊良主将は「全国は手の届くところまで来ている。後輩は(福田)先生を信じて、自分に厳しく取り組んでほしい」とエールを送った。

ただ、好レシーブでボールをつなぎながら返球で失敗し、ルーズボールでもお見合いする場面もあった。全国の経験値から来る札幌大谷の勝負どころでの粘り強さなど、差があるのも事実だ。新チームの主将に就く予定の九本は「練習での甘さが試合の大切なところである。3年生の分まで頑張つて全国に行く」と力を込めた。



【男子準決勝・東海大札幌高一とわの森三愛】正確なトスを上げる東海大札幌高の①納彩杜主将

主将でセッター
仲間率い全国へ
○…東海大札幌高の納
(おさめ)彩杜主将は、セ
ッターとして冷静に試合を

納(帯翔陽)の東海大